

— 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、本文の表記を一部変更しているところがあります。）

なぜ、人間はカラオケを発明したのか？ その理由を考えるためには、^①なぜ人は歌を歌うのかということを探っていかなければならないだろう。

音楽文化人類学者クルト・ザックスによれば、人間は幸せな状況だから歌を歌うというよりは、逆に、アメリカの黒人奴隷たちが歌う黒人霊歌やブルーズなどのように、ある種、絶望の淵にあるような状況の方がより「ウタを歌いたくなる」のだという。人生への絶望と^a「アキラめがそうさせるのか、あるいは、何としても未来へ明るい希望を捨てまいとする願望がそうさせるのか。

器楽音楽と違って、^②歌には歌詞ということばがある。ことばには、当然意味がある。人間の喜怒哀楽の感情、生活や政治などのすべてがそこには表現されている。しかし、歌は、共産主義国家などの一部の地域を除いて、国家や社会のプロパガンダ（国威高揚のための宣伝）ではない。それが、社会や国家に向けられたものであっても、歌は、あくまで、人間の個人的なメッセージだ。「社会が悪い」「彼女（彼女）が好きだ」と歌っている主体は、常に個人。子供を眠らせる子守唄であっても、労働を共有する労働歌であっても、社会への反逆的なメッセージであっても、それを歌うのは、あくまで個人。

しかし、それとはまったく逆に、人間というのは、個人では生きられない動物でもある。家族や社会といったユニットの中でしか存在しえない生き物でもある。つまり、人間にとって歌というのは、「生きていたい」「生きなければならない」「生かされている」主体と、その周りの人間や社会的環境とをつなぐメッセージであるとも言える。

となると、それがいかに天下太平を歌う「お気楽ソング」であっても、「生きる」ということは人間個人の力ではどうにもならないんだということが、常に「歌」のメッセージの根底には横たわっているのではないのか？

そこで、改めてカラオケの意味を考えてみる。

^③カラオケを発明した国。それは、紛れもなく日本である。そして、そこで歌われるウタは、ほとんどすべてと言っていいぐらい西洋音楽を基本にした音楽だ。カラオケに行って、わざわざ民謡を歌う人は稀^{まれ}だろう。それが、Jポップであれ、アメリカのヒットソングであれ、歌謡曲や演歌であれ、その基本はすべて西洋音楽のドレミでできている。つまり、演歌がいくら日本的なペンタトニック音階（五音音階）な響きを持ってもドレミを使う以上西洋音楽であることに変わりはない。ここが、けっこう重要なポイントである。

西洋音楽と日本音楽の違いは、ことばを変えれば、西洋音楽を發展させたキリスト教をベースにしたヨーロッパの個人主義的文化と、日本の儒教、仏教をベースにした協調文化の違いでもある。日本の社会には古くから儒教的な倫理観と、個人の意見は常にムラ（共同体）の意識に統合されるという規律がある。しかし、西欧の社会は、あくまで個人主義的な考えが優先され、それを前提に共同体の利益が考えられていく。もちろん、こんな簡単な図式で日本社会と西欧社会の違いがすべて一般化されるわけではないが、大意としては理解されることだろう。

国や社会や家族、ムラの意志が個人の意志よりも優先される環境で人間が個人の思いを**タク**すには、日常的な会話以外の場所にその**ハツロ**を求めなければならない（社会のルールの中では個人の自由意志は反映されにくいわけだから）。和歌や短歌もそうであつたろうし、民謡、俳句や小唄、端唄もその発言方法の一つであつたかもしれない。つまり、日本の社会では、「うた」という表現方法の中に個人の「代理発言」の機会が用意されていたのではないのか？

会社というムラ、家庭というムラで発言できない個人が、^④カラオケという形態の中で「うた」として発言する。面と向かつてできない「愛の告白」や、会社や家庭では言えない**グチ**が、「うた」の中では何の問題もなくストレートに発言できる。別に、ことさらそうした「隠れた」メッセージを持たない人でも、個人という存在を自分以外の他者に**ゴジ**できる場所をカラオケは気軽に与えてくれる。そして、それが、西洋音楽というスタイルの中であればなおさらである。主役（メロディ）と傍役（リズムやハーモニーが作り出す伴奏）の違いがはつきりとしている西洋音楽では、日本の伝統音楽にあるような協調性はほとんど排除される。「ハモる」というメロディに声で和声づけをしていく行為は、別に「協調」でも何でもなく、単純に、主役（メロディ）に従順な傍役としてのフォローの意志を表明しているに過ぎない。日本の伝統音楽には、こうした主役と傍役のはつきりした関係性はあまりない。能の謡いであっても、歌舞伎の音曲であっても、ウタは全員同じフレーズを同じに歌う「ユニゾン」という形式を基本にしている。ユニゾンの最も難しいところは、「意志をそろえる」というところ。「間」や「呼吸」「意志」が合わなければユニゾンで歌うことは不可能になる。これこそが、「協調」を基本にした日本の伝統的な音楽の典型的な意志表現のスタイルなのである。

しかし、現代の日本はそうした「協調」文化から逃れ、西欧的な「個人主義」文化により居心地の良さを感じているのかもしれない。「協調」や「ムラ」から逃れるためには、カラオケで自分が「主役」になる必要がある。現在、世界中でカラオケが愛好されているという話だが、実際問題、この日本の発明品が、日本やアジア以上に西洋文明諸国でサブカルチャーとして定着するかというと私にはいささ

か疑問に思えてならない。その理由は、ただ一つ。西欧の個人主義文化の国民に、あえてカラオケという「代理個人主義」の器械が必要なのだろうかという疑問を持っているからだ。

同じ日本の中でも、カラオケ嫌いな人がけっこういる。そういう人たちが「なぜカラオケが嫌い」かの理由には、「ウルサイ」とか言う前に、「カラオケで歌う」という代理発言行為を必要ないと思っていることが暗に隠されているからなのではないだろうか。つまり、もともと個人主義的な生き方をしている人が、ことさらカラオケのマイクの前で「自分」を主張する必要もないということなのかもしれない。

(みつとみ俊郎^{としろう}『音楽はなぜ人を幸せにするのか』)

問一  のカタカナを漢字に直しなさい。

問二 —— 線部①について、後の問いに答えなさい。

(1) 筆者は人が「歌を歌う」ことについて、どのように説明していますか。最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア クルト・ザックスの考え方とその延長線上にある自身の考察を述べ、「歌う」という行為に社会のあり方が象徴的に示されていることを説明している。

イ クルト・ザックスの見解に対して抱く自身の疑問を一つずつ解決しながら、「歌う」という行為が社会にとっていかに危険かということを説明している。

ウ クルト・ザックスの分析に基づいて人間の心理を推し量ったうえで、「歌う」という行為を人と社会との関係性においてなされるものであると説明している。

エ クルト・ザックスの論が優れたものであることを根拠とともに示し、「歌う」という行為は社会から切り離されて個人のものとなるべきだと説明している。

オ クルト・ザックスの指摘を自身の論の中に組み込んで説得力を持たせつつ、「歌う」という行為が社会を変革させていく一つの要因になると説明している。

(2) 筆者は「歌を歌う」ことをどのような言葉で表現していますか。本文中から五字程度で抜き出して答えなさい。

問三 ——— 線部②とありますが、筆者は歌を歌う人にとっての歌詞をどのように捉えていますか。解答欄の形式に合わせて説明しなさい。

問四 ——— 線部③とありますが、カラオケが発明される以前の伝統的な日本社会では、どのようなことが行われていましたか。具体的に説明しなさい。

問五 ——— 線部④とありますが、日本人にとって「カラオケという形態」のどのような点が効果的に働いたのですか。わかりやすく説明しなさい。

問六 本文の内容に合致するものとして最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア カラオケが日本以外の国で流行しない現状を見ると、いまだに個人主義が確立していない日本には、既にそれを手にした世界各国から取り残される危険性があると思われる。

イ カラオケの流行を一時の社会現象として捉えるのではなく、そこに至った過程から日本社会の問題点を把握し、その解決に向けた努力をすることが最も重要である。

ウ カラオケの流行に陰りが見え始めているのは、日本人の気質そのものが変化した結果であり、それはやがて日本社会においてカラオケのみならず音楽の衰退をもたらすだろう。

エ カラオケの発明と流行は、歌を歌うこと自体の意味を変質させたのみならず、日本人個々が自身の属する社会のあり方にも疑問を投げかけていく大きな契機となった。

オ カラオケに対して否定的な見方をする日本人の存在は、閉塞的な社会に拘束されず、自分自身の自由な生き方を実現できる個人の出現を示唆している可能性もある。

二

次の文章は江戸時代の俳人である上島鬼貫が自らの経験を踏まえて、「旅」について感想をつづったものです。これを読んで、後の問いに答えなさい。

なほ行き行きて心あてなる国に入りては、^a きのふけふ初々しかりしも^a 人の心に鬼なければ、いつしかなじみ付きて、おもしろき事をかしき事にふれては、人なみに興を催すにも、古郷の事のみ心の底に有りければ^① 慰むわざも短く尽きぬ。又帰るさにおもむきては、ひと日ひと日国の近くなるにまかせてなほ^{*} とけしなきに、^② 道おそきうまやとひたる程腹立たしき物はあらじ。^b やうやう帰り着きなるとしける日、我岡野辺の木立など見え初むるこそ嬉しけれ。笠破れ杖短く、色さへ黒う面痩せ、麻の小衣うちしほれたるに、妻子出で迎ひて^③ 寿言ひあへる中に、涙ぐみなどしたるは、いつかはと思ひしだに待ち得たる嬉しさ、あるは憂からん旅のあらましなど推し量りての心ならめ。「童僕喜び迎へ稚子門に待つ」と言ひけん心の程は、^④ 国こそかはれ。しばしが内は夜々の寢覚も旅の心地に惑ひぬるを、窓・天井より心づきては、我宿なりとおぼゆる程にぞ有りける。又悔しかりしは、日ごろしたひたる名どころだに、或時は雨にさへられ、あるは日うちかたぶきて泊りをいそぎ、帰さにはかならず立ちよらんと思ひて過ぎぬるをも、古郷の方^{かた}にうち向きては、^⑤ 一足をだに費しがたくて、又来べき折もあらめと見残したりしも、終に行くべきやすがもなくて、年経りなどしたる後の心こそ口惜しけれ。

*注 人の心に鬼なければ＝世の中には情け深い人もいるので

とけしなきに＝もどかしい気がするが

童僕喜び迎へ稚子門に待つ＝中国の詩人陶淵明の詩の「帰去来辞」の一節で、召使が喜んで迎え、幼子が帰りを待っている、の意。

(『独言』より)

問一 〓 線部 a・b の表記を、現代仮名遣いに改めなさい。

問二 〓 線部①は、どういうことを言っていますか。その説明として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 頼みとした土地に着いた喜びも、故郷とのあまりの違いにすぐに失せてしまうということ。

イ 目的とした土地に着いた喜びも、故郷への思いによってすぐに色あせてしまうということ。

ウ 高貴な人の暮らす土地に着いた喜びで、故郷の人々のことが心から消えてしまうということ。

エ 目指した土地に着けなかった悲しみも、故郷を思い出すことで自ずと癒いされるということ。

オ 理想の土地を見つけられなかった悲しみで、故郷の人々に申しわけなく思うということ。

問三 〓 線部②中の平仮名のうち三箇所を、文意が通りやすいように漢字に改め、 〓 線部②を書き直しなさい。

問四 〓 線部③は、だれのどのような気持ちを表していますか。三十字以内の現代語で答えなさい。

問五 〓 線部④は、この後に続く言葉をあえて省略して、含みのある表現としてしています。どのような言葉が省略されていると考えられますか。十字以内の現代語で答えなさい。

問六 〓 線部⑤を、解答欄の形式に合わせて現代語訳しなさい。

ほんの少しでさえ

、

問七 以下に挙げるのは、本文を読んだ後に生徒が意見を述べ合ったものです。明らかに読み誤っているものを二つ選び、記号で答えなさい。

ア 作者は旅の途中でさまざまな場所に赴き、思い残すこともないほどに満足しているね。

イ 家に着いた後も、旅の続きのような感じがしていてすぐには現実に戻れなかったようだ。

ウ ふるさとへの思いがあまりにも強かったから、先を急いでしたこともあったみたい。

エ 天候が悪かったときなど、再び訪れようと思って行くのを取りやめたところもあったようだよ。

オ 訪れなかったところがあったことを、年老いた今になって後悔するのはよくわかるなあ。

カ 旅先で我が家のことばかり気にしていた作者が、我が家では旅先のことで頭が一杯になるなんて皮肉だね。

(問題は9ページに続きます。)

(このページは空白です。)

三

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。（設問の都合上、訓点を省いた箇所があります。）

艾子^{がいし}好^ム飲^{ムラ}。少^{ナシ}醒^{さむル}日^一。門生^{もんせい}相与^{ともニ}謀^{リテ}曰^{ハク}、「此^①不可^{*}以^{ダテ}諫止^ヲ。唯^②以^{ダテ}陰事^ヲ一休^{ヤルハシム}之^ヲ。宜^{よろシク}可^{シト}誠^{いましム}。」一日^{いちじツ}大飲^{シテ}而^{*}噦^{えつス}。門人^{もんじん}密抽^{ひそカニひキ}二彘腸^{ていちようヲ}一^シ致^ニ二噦中^{チテテシテハク}一^ニ持^{チテテシテハク}以^{シテ}示^{ハク}曰^{ハク}、「凡人^{およソハ}具^{そなヘテ}二五臟^③一^{ハジメテ}方^ア能^ク活^{いく}。今^{イマ}、公^ハ因^{リテ}飲^{いんニ}而^{イダシ}出^ヲ二一臟^一、止^{タダ}四臟^{ノミ}矣^④。何^{ナニ}以^テ生^{クル}耶^{ヤト}。」艾子^{がいし}熟視^{シテ}而笑^{ヒテ}曰^{ハク}、「唐^⑤三藏^{スラ}猶^{なホ}可^シ活^ク、況^{いはンヤ}有^{イルデナ}四耶^{ヤト}。」

（『東坡居士艾子雜説』より）

*注 飲||酒をたくさん飲むこと。

門生||門下生。門人。

諫止||いさめてやめさせる。

噦||嘔吐。

彘腸||ぶたのはらわた。

唐三藏||三藏法師。『西遊記』の登場人物。

問一 || 線部 a・b の読み方を平仮名で答えなさい。

問二 || 線部 ① は「これもつてかんしすべからず」と読みます。これに従って返り点を付けなさい。

問三 || 線部 ② とありますが、「門生」は自分たちの「陰事（||荒技）」により、艾子がどのようにすると考えたのですか。「陰事」の内容を踏まえて、四十字以内で説明しなさい。

問四 — 線部③について説明した次の文のA・Bに、それぞれ適切な漢字一字を入れなさい。

「五臓」とは心臓・A臓・脾臓・肺臓・腎臓を指し、「五臓B腑」という、生命維持に大切な人の内臓を表す熟語としても用いられる。

問五 — 線部④の現代語訳として最も適切なものを、次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どのような生き方をするのか。

イ どうして生きようとするのか。

ウ どうやって生きていくのか。

エ 何としても生きたい。

オ 是非とも生かしたい。

問六 — 線部⑤について説明した次の文章のA Cに、それぞれの指示に従って適切な言葉を入れなさい。なお、「況し耶」は「まして」（は）なおさらである」という意味を表します。

艾子は、「三蔵」にA（漢字二字）という意味を掛けながら、門生にB（三十字以内）と言っています。この部分は艾子がC（後の選択肢より一つ選び、記号で答える）ということをおがわせます。

Cの選択肢 ア 厳しく門生を指導する人物である

イ 古くからの規律を重んじる人物である

ウ 機転の利いた発言をする人物である

エ 門生の思いを素直に受け入れる人物である

オ 冷静に物事を考える人物である

（問題はこのページで終わります。）

